

二十七日。(あ)より(い)をわけて漕ぎ出づ。
かくあるうちに、京にて生まれたりし女子、国にて

^アにはかに^イ失せにしかば、^ウの^エ出で立ちいそ
ぎを見れど、^ウ何^ヰとも言はず。京へ歸るに、女児のな
きのみぞ、悲しび恋ふる。ある人々も^エえ堪へず。この
間に、^エある人の書きて出だせる歌、

都へと思ふをものの悲しきは
歸らぬ人のあればなりけり

また、あるときには、

あるものと忘れつつなほなき人を

^オいづらと問ふぞ悲しかりける

① 二重線部^ア～^オのこの文章中での意味を答えなさい。

^ア にはかに

^イ 失せ

^ウ 出で立ちいそぎ

^エ え堪へず

^オ いづら

② (あ)(い)に入る地名を漢字で答えよ。

③ う「何^ヰとも言はず」とあるが、その理由を答えなさい。

④ え「ある人」とは誰のことか。

⑤ 次の接続助詞の意味として最も適切なものを、ア～オからそれぞれ選びなさい。同じ記号を何度使ってもよい。

(1) 失せにしかば (2) 出で立ちいそぎを見れど (3) 思ふをもの
(4) 帰らぬ人のあれば

ア 順接の確定条件・原因理由「～ので」

イ 順接の確定条件・恒時「～するといつも」

ウ 順接の確定条件・偶然「～したところ」

エ 逆接の確定条件「～けれども」

オ 逆接の恒時条件「～ても」

⑥ 第一首の歌について、次の文章の空欄①～④を埋めなさい。

都へ帰ると思うのに、なんとなく悲しいのは、いつしよに帰ることのできない(①)がいるからだと気づいた、という意味である。「帰らぬ人」は、単に都へ帰らない人ではなく、すでに(②)人を指す。都へ帰ることへの(③)と、娘を失った(④)が対照的に表現されている。

⑦ 第二首の歌について、次の文章の空欄①～④を埋めなさい。

娘が(①)ことを繰り返し忘れ、まだ(②)と思うて、やはり(③)と尋ねてしまう。そのような自分の振る舞いに、あらためて(④)を感じている。

⑧ 第二首の歌の「ある」と「なき」は、それぞれどのような意味か。対比が分かるように説明しなさい。

⑨ 第二首の「し」「は」「こ」ではどのような意味を表しているか。次から一つ選びなさい。

ア 二つの動作を同時に行うこと

イ 同じことを繰り返しすること

ウ 動作が完了したこと

エ これから動作を始めること

⑩ 二首に共通する、亡き娘に対する思いを四十字以内で説明しなさい。

① ア 突然 イ 亡くなり ウ 出発の準備 エ 堪えることができない オ ど

② (あ)大津 (い)浦戸

③ 娘はすでに亡くなっており、出発の準備を見て何かを言うこともできないから。

④ 紀貫之

⑤ (1)ア (2)エ (3)エ (4)ア

⑥ ① 娘(女子) ② 亡くなった ③ 喜び ④ 悲しみ

⑦ ① 亡くなった ② 生きているものだ ③ どこにいるのか ④ 悲しみ

⑧ 「ある」は娘が生きていること、「なき」は娘が亡くなっていること。

⑨ イ

⑩ 娘の死を受け入れきれず、今も生きているかのように恋しく思う深い悲しみ。